



発行 東京片貝会
埼玉県新座市栄1-55
(〒352) 阿部修次
電話0484-78-4494

第38回 東京片貝会総会御案内

期日 平成9年6月29日(日) 午後一時
会場 東京新潟県人会館

新緑の目に染みる頃を迎え、皆様には健やかに活躍のこととお喜び申します。ここに左の通り、総会を開催することになりました。本年も郷里からお客様をお招きして、いろいろなことを聞きたいものです。また、互いにその後の近況を語り合い、交誼を深めることも嬉しいことです。どうぞ多数ご参加下さいますよう、ご案内申しあげます。
尚、参加者には、片貝からの「お米」と「味のれん」の米菓のお土産があります。

記

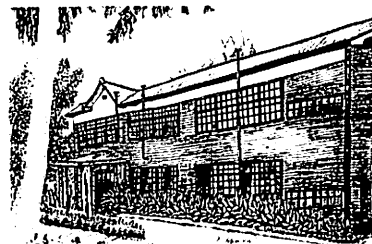
- 一、日時 平成9年6月29日(日) 午後一時(正午より受付)
- 一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-16)
営団地下鉄「湯島」二分 (千代田線)
「上野広小路」六分(銀座線)
「御徒町」七分
- 一、会費 JR
男性 六〇〇〇円 女性 五〇〇〇円
お願い 返信は6月20日までに届くようお願い致します。

会の動き

- 理事総会 12/7
於：池袋カンポ会館 18名
- 一、片貝中学校50周年記念
寄付の件
於：じよんのび会の件
- 一、四十周年の件
- 一、新年会の準備
於：県人会館 1/26
二面参照下さい。
- 常任理事会 2/22
於：池袋カンポ会館 9名
- 一、新年会の反省
- 一、中学校50周年記念募金
方法について
於：じよんのび会
- 一、名簿の準備、広告の件
幹事会 2/23
於：相崎宅 4名

片貝中学校創立五十周年 記念行事のお願い

故郷片貝中学校は、今年の秋創立五十周年の記念行事が行われます。片貝の実行委員会より、東京片貝会に対し国旗掲揚塔の寄贈の依頼があり



解体された片貝中学校

ました。そこで委員会を開き相談の結果、できるだけ御協力しようと言うことになりました。

片貝中学校卒業生の会員には、各級友会毎に一定額の募金をお願いする事になりましたが片貝中学校を卒業されない会員の方々にも御協力をお願いしたいと思います。
振替用紙を同封致しますので御賛同頂けましたら六月の総会までに宜しくお願い致します。
(目標額 百五十万円也)

会員近況

小川欣一氏小千谷観光
フォーラムで講演
四面参照下さい。
佐藤佑一氏テレビ出演
(昭27) 神奈川大学教授
片貝会副会長。4月9日NHK教育テレビで専門の電池の話で出演された。
本田政秀氏御逝去(82才)
戦後の混乱期の片貝にマドロスパイプの製造販売の会社を経営され片貝の多くの人々に職場を提供され町にも数々の功績がありました。(通称トロサ) 御冥福を祈ります。(合掌)

東京片貝会四十周年行事のお願い

広告募集

東京片貝会の四十周年の行事の一環として、会員名簿を新しく発行する準備を進めております。その財源の一助に

広告を募集致します。多数の御参加をお願い致します。
一頁：二万円 半頁：一万円
1/4頁：五千円

東京片貝会併壇

一、年会費と会の運営について
じよんのび会 4/18・19
箱根「まとい荘」 14名
四面参照下さい。

会費納入のお願い

東京片貝会には皆様の会費(二千元)で運営されています。会報と同封されます振込の用紙又は総会会場で納入を宜しくお願い致します。

二ノ町 佐藤邸について
新年会での佐藤邸についてのアンケート感謝します。
(出席者72名中36名回答)
アンケートの内容はかたかた組の「かわらばん」14号に掲載されました。
運営方法は片貝の人達で建物を保存し利用することとした方が大部分でした。建物は図書館、郷土史料館、イベント会場などの提案がなされました。
片貝では、色々な意向を参考にして、佐藤邸の利用方法の更なる検討が進められる様子です。

新年懇親会 盛大に開催

平成9年1月26日 新潟県人会館



片貝からは雪の便りも聞かれたこの日、恒例の新年会は大塚順一氏の司会、黒崎正氏による開会の辞で開催された。阿部会長の挨拶では、故郷の話題として「二ノ町の佐藤邸の跡地利用方法が未だ決まっておらず、かたかい組の依頼でアンケートをお願いした。

い。また今年には片貝中学校の50周年の行事が計画されているが御協力をお願いしたい」とお話があった。その後新しい趣向として、鏡割りがヨイシヨの掛け声も盛大に行われた。

勝又前会長の音頭で乾杯の後、楽しい懇親会に入った。お酒も入るに連れ、忍足さんの「十日町小唄」の踊り、自慢のカラオケと盛上がり、「ああ上野駅」の合唱も盛大であった。

長年会報の編集、会長、励ます会など大変尽力された佐藤量八氏から記念品のお礼と思い出話、会の発展についての挨拶があった。

恒例のシャギリ、木遣りの後、佐藤彦一氏の万歳三唱、佐藤佑一氏の閉会の辞でお開きとなった。

当日の出席者 (72名)

- (天正) 佐藤量八
[昭25] 小宮孝作 相崎勇次 早川松太郎 小川茂雄 芝 五郎 山口三郎 黒崎敬五郎 黒崎孝造 勝又 功 佐藤彦一 芝 三四司 堀井豊作 小宮良夫 山口ヨシ 日下部政子 佐藤フミ 芋川とし 丸山 春

藤田睦子 大内登世 田口タツ

[昭11] 20

- 黒崎音吉 小宮秀夫 安達保治 丸山忠次 太刀川善蔵 佐藤道雄 松下利夫 山口光男 小宮幸雄 吉原俊六 三重堀清 小野塚洋二 五十嵐貞雄 山田チエ 小宮八重 青木富代 丹治きみ 中島ヨシ 上田益美 江澤キヨ 庄司とう 星 シズ 西山和子

[昭21] 30

- 黒崎晴郎 阿部修次 新野次朗 安達和三 山岸慶昭 安達弘男 吉原三代治 高野 賢 神林勝夫 山口明夫 黒崎 正 大塚順一 相崎達一 浅田義男 橋 喬 佐藤孝二 安達太一 小野塚茂 安達和司 石上俊夫 佐藤祐一 忍足良子 山本文子 神林桂子 中村恵美子 石川春子

[昭31] 33

- 藤塚 悟 小宮義興 芝 満男 諸我時夫 吉井健次 (敬称略)

会員短信

新年会の御案内のお返事で 沢山の方々から、近況、盛会 祈念、会報への励ましのお言葉 をいただきました。一部を 紹介します。(敬称略 順不同) 石黒 ミス (大15)

片貝の花火が除夜に出たので、びっくりしました。足が悪くて失礼します。 生亀 文字 (昭21)

除夜。浅原神社には鐘が無い筈。心配しながら「往く年来る年」をみておりました。やはり、すごい発想をもった

片貝。浅原神社は何かを秘めた神社とみました。

吉原 武夫 (昭28)

昨年暮れNHKゆくゆく年くる年で、浅原神社を拝見し、なつかしく小さい頃を思い出しました。

本田 善一 (昭26)

いつも会報をありがたうございます。故郷の情報源として大変懐かしく愛読させて頂いています。

内藤富美子 (昭43)

我が同級生(つくし会)は本年42才の厄払いです。お祭りが楽しみです。 高橋 一郎 (昭26) 豆腐店まあまあの売上。

佐藤 正雄 (大8)

出席できないのが残念。

安達 清次 (大10)

会員皆様の御健康祈念。

友田勇四郎 (昭2)

老人会があり残念。

丸山 廣弥 (昭2)

元気でおります。

是非、次回の会の御出席をお待ちしております。

早く元氣になって 体調が悪く、出席できないとの便りを頂ました。

吉原菊枝 (昭9) 長野チイ (昭9) 岸田とし子 (昭21) 横尾ミチエ (昭24) 安達宗吉 (大13) 広川久美子 入院中

山口武一郎 (昭9)

お礼 左記の会員の皆様よりご祝儀および御寄付を頂きました (敬称略、順不同)

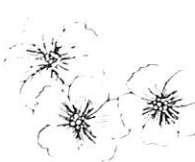
佐藤正雄 相崎勇次 本田幾雄 安達和司 勝又 功 阿部修次 新野次朗

☆ 転居・表示変更 長沢 愛子 (昭24) 〒194 東京都町田市鶴間148-5-304 ☎0427-95-5362 池本 スミ子 (昭33) 〒191 神奈川県鎌倉市玉縄1-11-22 ☎0467-44-2244 ☆ 逝去 五十嵐 忠作 (昭17) (平8・12・19) 黒崎 熊太郎 (昭13) (平8・12・11) 本田 政秀 (昭2) (平9・3・24) 浅田 政猛 (昭18) (平9・1・4)

東京片貝会・会計報告

(自 平成8. 4. 1. 至 9. 3. 31)

Table with financial data: 収入総額 2,024,716, 前年度繰越 628,796, 内訳 (別途積立金 200,000, 郵便振替 408,056, 現金 20,740), 年会費 363,000, 総会費 (72名) 394,000, 新年会費 (76名) 433,000, 祝儀・寄付 205,500, 雑収入 420, 支出総額 1,388,725, 総会費 377,886, 新年会費 408,912, 役員会費 28,350, 県人会費 48,000, 浅原神社奉納 10,000, 片貝城址寄付 15,000, 慶弔費 11,250, 交際費 34,800, 通信費 188,765, 会報費 (53・54号) 189,820, 印刷費 30,428, 交通費 10,260, 事務費 30,424, 振替手数料 5,130, 次年度繰越 635,991, 内訳 (定額貯金 200,000, 郵便貯金 360,420, 郵便振替 41,145, 現金 34,426)



上記の通り報告いたします。

平成9年3月31日

会計 新野 次朗・相崎 達一・吉井 信三

上記は適正であることを認めます

会計監査 吉原 三代治・佐藤 孝二

母校を励ます会・報告

温かいご支援ありがとうございます

昭和58年春に発足したこの会は、これまでに母校に対し記念講演会を15回、図書の寄贈を14回行ってまいりました。

来年は発足15年目を迎えます。六月の総会で、15回目の図書が贈られる予定です。

これまでのご支援者延千三百二十四名になっています。

〔昭11-20〕

小宮繁雄、和田豊次、広川久美子、黒崎音吉、太刀川三郎、内海光子、谷口イク、青木富代、野中広司、木村百合子、松下利夫、小宮幸雄、吉原俊六、五十嵐貞雄

〔昭21-30〕

阿部修次、安達和三、神林勝夫、新野次朗、小高良子、黒崎正、大塚順一、佐藤孝二、安達太一、山本文子、小野寺昭子、安達和司、小野塚茂、後藤イ子、永井一、小林均、石川春子、佐藤祐一、松岡規子、野崎真知子、三重堀栄一

〔昭31-43〕

藤塚 悟、小宮善興、芝 満男、宇野沢誠子、諸我時夫、安達 弘、黒崎修二、森下 昭、内藤富美子

〔大正〕 佐藤正雄
〔昭2-10〕 酒井ミヨ、相崎勇次、小川茂雄

母校を励ます会・会計報告

(自 平成8. 4. 1. 至 9. 3. 31)

収入	198,095	支出	235,000
基金 (70名)	197,500	寄付図書	200,000
	595	講演会	20,000
		交際費	15,000

通算会計 (昭和58. 5. 1~平成9. 3. 31)

収入	4,362,919	支出	3,318,075
基金 (延1,324名)	4,066,700	寄付図書(14回)	3,000,000
寄付	35,000	講演会 (15回)	170,000
利息	261,219	会費補助	35,000
		印刷・郵券	82,684
現在高	1,044,844	交通費	30,000
定額貯金	780,000	事務費	288
郵便貯金	258,844	雑 費	103
郵便振替	6,000		

上記の通り報告いたします。

平成9年3月31日

会計 新野 次朗・相崎 達一・青井 信三

上記は適正であることを認めます。

会計監査 吉原 三代治・佐藤 孝二

第二回「じよんのび」の旅

「春の箱根」

4月18日 19日

花鳥風月を求めて……

今年も箱根に出掛けました。何をやっても、どんなことをしゃべっても損得なしの人間無害同志14名。新宿よりのロマンスカーの中から盛り上がりました。登山電車に乗継いで夕方前に昨年と同じ強羅の「まとい荘」についた。

庭の山桜は満開でまさに春爛漫。一風呂入ってから夕食になりカラオケが用意してあったのに話しはずんでアツと言う間に仲居さんに終わりの催促。

朝、「うぐいす」の声で目

が覚め、朝風呂に入りこの世の幸をしみじみ味わった。(ア〜じよんのびだ！)

今年もお世話下さっている山口さんの御案内で宮城野に下り、一休みしてから昼食はパーベキュー、全く良く食べ良く飲み、良くしゃべった旅でした。

それにしても、昭五会の山口さんには今年も大変お世話になりました。いたれりつくせりのお心配りに有り難うございました。お蔭様で安い費用で心から「じよんのび」でした。謝々(記 阿部)

当日の参加者(順不同)

- 山口三郎 太カ川善蔵
- 山口光男 小宮幸雄 吉原俊六
- 安達和三 高野 賢 新野次朗
- 阿部修次 黒崎 正 大塚順一
- 石上俊夫 他一名

お願い

「じよんのび」二回目も盛況のうちに終わりました。

今年、昨年と箱根強羅にお邪魔しています。

この会に對しましてのご要望、ご意見をお待ちしています。



雪深い片田舎の村営学塾

「朝陽館」

片貝中学校は今年、創立五十周年を迎える。

片貝は今から約二百二十年前の江戸時代に村営の学塾を創った向学精神燃える誇り高き伝統がある。

村営の学塾は安永八年(一七七九)、この頃の片貝は所帯数七百餘り、人口四千人位、時の庄屋太刀川喜右衛門(なんと22才、浄照寺住職、医者、酒造家など)の主人人達が、村の活性化、地域の発展、若者達への未来を託し熱い情熱をもって創立された。

当時の村は酒造が極めて盛んであり、校舎の建設費、経費は3軒の酒造家が全額負担したといわれる。

塾は「朝陽館」といい、塾長は代々江戸で一流の学者に師事した人、あるいは中央にいて既に一家をなしている学者達を招いている。江戸でも高名な先生方であり、塾のレベルは高く、当時の高等学府であった。

第二代藍沢北溟の時代などは近隣町村、遠くから遊学する者も多く、門人百人にも及んでいる。

「朝陽館」の教育と教育重視の村風から人材を輩出している。門下生の中からも学者があらわれ、三代目の皆川榮園もその一人である。

七代目の丸山貝陵は片貝の生まれで、「朝陽館」で学びその後、江戸で勉強し塾長となった。この頃、16才で助教



となっていた人が、明治初期に初代軍医総監の子爵石黒忠恵である。池津の自宅でも塾を開き、塾生の一人が東洋大学の創立者、井上門下である。貝陵の子は八代目丸山貝村であり、明治の学制頒布まで続くのである。

塾主達の墓は寺町の奥、中使山遊山台にある。「小千谷指定文化財史跡朝陽館耕読堂諸先生の墓碑」と記される。

(文と絵 小宮)

ふるさと・は・今

H8年12月から
H9年5月まで

母校近況

■小学校

校長先生人事異動

着任 岩田忠満先生(49才)

前 柏崎日吉小教諭

前、井口 易氏(60才)は退職され、小千谷市教育センター長に就任されました。

ピカピカ一年生(4/7)

今年の新入生は54名で、体験入学(2/13)も行い、晴れて一年生となった。御馴染みの黄色のワッペン(保険付)が保険会社から贈られた。

4/1日現在、小学校の児童数は三三八名で昨年に比べ十名の減となった。

元気なスーパードライズ

小学校のミニバスケットボールチーム片貝スーパードライズは第18回BSN杯新潟県大会(12/15)で、見事三位となった。また、新メンバーでの第5回東北電力小千谷所長杯親善大会(2/16)は圧倒的な強さで優勝を飾った。

作文コンクール

平成8年度「明るい地域社会・家庭づくり」[家庭の日]に関する作文コンクールで小学1年の藤塚友絵さんが市長賞、4年の相崎訓史さんが奨

励賞に入賞した。友絵さんの題は、「おばあちゃんのたからもの」です。

中学校

校長先生人事異動

着任 館岡信男先生(52才)

前 長岡東中教頭

前任の酒井勝吉先生は南魚沼湯沢小へ転出されました。

近県中学女子バレーボール大会 片中2回戦で散る

この大会は一昨年片貝中体育館が完成したのを記念し、片貝体育協会が主催し始められた。近県の強豪32チームが参加したが入賞はならなかった。保護者会が大会の進行を全面的にサポートしている。

中越地区バスケットボール大会 片中準優勝

この大会は片貝のバスケの更なる飛躍を願い地元片貝体育協会主催で28回を数える。

強豪12チームを迎えて、順調に勝ち進んだが、決勝で小千谷中に惜敗した。

作文コンクール入賞

「中学の部」

前述のコンクールの中学の部で片貝から4名の入賞者があった。

教育長賞：黒崎亜沙子(二年)

「お弁当の味」

奨励賞：五十嵐真紀(二年)

「私の夢」

：神林真由美(二年)

「お父さんの車椅子生活」

：五十嵐未央(三年)

「世界に目を向けて」

「お父さんの車椅子生活」

：五十嵐未央(三年)

「世界に目を向けて」

まわりの世界

火災連続発生

12/3、四ノ町の佐藤正一さん宅から出火。両隣の野中和三さん、井上一さん宅の三軒を全焼した。発見が遅く火のまわりが速かった。

また、2/23、二ノ町の三島屋(安達彦吉さん経営)さん

から出火、母屋と作業場を全焼した。彦吉さんは焼跡の台

所付近から焼死体で発見された。いずれも怪火事であった。

'96片貝十大ニュース発表

J A片貝町は町民からアンケートを募り1年間の十大ニュースを発表した。

① デイホーム片貝スタート

② 片中バレー部5年連続北信越大会出場

③ 旧片中鉄筋校舎解体

④ J A片貝町婦人部名称を女性部へ変更

⑤ ミニバスケ三位

以下紙面の都合で省略。

「浦ノ浜」盛大に出版記念会

一ノ町の大矢俊一さんは、先頃片貝町郷土史研究会から「大正期の女性ファンを魅了

した関脇浦ノ浜栄治郎」を出版したが出版記念会が12/7

開催された。研究会、同級会、同心会など関係者90名が集まり盛大に開催された。片貝町農協などで二千五百円で販売。浅原神社二年詣り 四千人

ここ数年、参拝者の人数は市内のトップの座を占めている。百八発の花火打ち上げの模様はNHKテレビの「ゆく年くる年」で実況中継があり話題を集めた。皆さん御覧になりましたでしょうか。

畠下一を自認する片貝町の、塞の神は浅原神社の境内で行われた。昼の部はモックラモ

チ、おんまいど、福餅まき、小塞の神の点火などが行われた。夜の部は百八灯、御神火送り、福餅まき、塞の神点火仕掛花火、木遣りと賑やかな塞の神となった。

植ふみさん片貝へ

女優の植ふみさんが21

三ノ町の紺で取材を行った。

雑誌「家庭画報」の中のレポートとして訪れたもので、紺仁の若旦那の松井均さんも大張切りで説明を披露していた。

観光フォーラム開催

「小千谷市観光フォーラム'97」が2/26サンブラザで開催され、二ノ町出身の小川欣一(緑友会) (株新潟交通東京サービスセンター)社長が基調講演「旅行形態の変遷と展望について」で、観光は産業、もっと力を入れて」と話された。その後のパネルディスカッションの助言者を務めた。

小千谷市議会議長に

関 広一議員就任

臨時市議会が5/13に開催され、関広一議長が決まった。関議長は、片貝町町裏出身の六才、当選七回。「公正にして、分りやすい市議会へ」

あとがき

四月の連休に片貝へ。ふるさと会館にお世話になり街山、町の人達そして同級生に会い、故郷を満喫。いつの時代もテーマはあれど、「我等がふるさと」は緑なりき。(小宮)

栄治郎 出版

